



THE SERVICE CLUB OF THE YM.C.A.

THE Y'S MEN'S CLUB OF NANZAN



国際会長主題 「心新たに立ち上がろう」

アジア会長主題 「心新たに立ち上がろう」

西日本区理事主題 「飛翔たとう ワイズスピリットを胸に」

中部部長主題 「ワイズは フェイス to フェイス」

クラブ会長主題 「ワイズは楽しく 奉仕の心も楽しく」

2010年12月

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

会 長	近藤 豊	副 会 長	小塚 英史	書 記	小林 滋記
会 計	森本 征夫	直前会長	杉山 弘時	連絡主事	中井 信幸



今月の聖句

さあベツレヘムへいこう

ルカによる福音書2章 15節

12月例会案内

第一例会

日 時：12月9日(木) 19:00~21:00
 場 所：八事 雲雀ヶ丘「神戸屋」
 卓 話：「クリスマス祝会」
 会 費：3,000円

今月は、クリスマス祝会です。主なるイエスの誕生を祝い、これを機にクリスマスが何を意味し、何を伝えるのかを考えてみましょう。

第二例会

日 時：12月16日(木)
 場 所：南山YMCA
 議 題： 1. 1月例会立案
 2. 次年度クラブ役員人事案作成
 3. その他

農場例会

日 時：12月5日(日) 9:00~
 タマネギの植え付けです。午前中には終了予定。
 事前の準備も終了。苗を植えるだけです。

11月第一例会報告

日 時：11月11日(木) 19:00~21:00
 場 所：南山YMCA
 出 席：浅井、荒川、小塚、小林、近藤、杉山、
 中井、森本

11月第一例会は、ハーブコーディネーター加藤さんのハーブについての卓話でした。現在農場でもかなりのハーブを栽培していますが、色々参考になるご意見を頂きました。土の選び方、近藤氏の奥様直伝のハーブソースの作り方など参考になるお話でした。



11月報告	在籍9名	第1例会出席	第2例会出席	メイクアップ	出席率
		8名	8名	0	100%

11月第二例会報告

日 時：11月18日（木）19:00～21:00
場 所：南山YMCA
出 席：荒川、小塚、小林、近藤、杉山、中井、
深尾、森本

議題として12月のクリスマス祝会をどのようにするかで、色々議論されましたが、結局昨年並みに他クラブとの合同ではなく、南山クラブだけで行うことに決まりました。担当は、小塚君です。

フェローシップイン南山報告

日 時：11月3日（木）10:00～
場 所：ワイズ農場
出 席：荒川、小塚、小林、近藤、杉山、中井、
森本、近藤メネ、コメ
ゲスト：熊沢、YMCAリーダー4
愛教大生2 愛県大、中京大、日福祉大

11月3日（文化の日）昨年中止したフェローシップイン南山が農場で開催されました。今年の招待施設は、南山寮（小学校低学年、幼児15名）名広愛児園（小学校低学年10名）で、快晴に恵まれ、歓声をあげイモ掘りに夢中になっている子供たちを見ていると、苗付けから、異常な暑さの中の草取り、水やり等の苦労が報われた気がしました。先月の例会で南山寮山田先生より、こういう施設の現状をお聞きし、この日を迎えましたので、子供たちの笑顔はまた特別の意味を与えてくれました。子供たちが自分の体を使いイモを張り、収穫袋に入れて大喜びをしている姿は、ほっとするものを感じました。

イモ掘りの後は、恒例のトン汁とご飯、今年はメ



インシェフの浅井君が欠席のため、中井、小林のピンチヒッターが無事大役を果たしてくれました。熱いトン汁と、少々お焦げのあるご飯との組合わせはなかなか美味しくおかわり続出でした。また、今年竣工した大型ビニールハウスも威力を発揮し、風が強く仮設トイレテントが外に張れない状態でしたが、ハウス内に設置出来作業も簡単でした。やはり大きなハウスは素晴らしいものでした。

南山クラブのメインプロの一つは、やはりこのプログラムで、来年度も是非続けもう少し拡大したいものです。そのためには、農作業のご協力を改めてお願いします。YMCAのリーダー、大学生の若い力の助けがあり無事終了しました。皆さん有難うございました。



チャリティーラン報告

恒例のチャリティーランが11月6日行われました。南山ワイズ関係では、例年通り丸和印刷チームと南山YMCAチームが出場しました。詳細はYMCAニュースをご覧ください。

出 席：荒川、近藤、森本、中井

チャリティーランに参加して

ここ数年間、マジメに運動したことはほとんどありませんでした。子どもの頃はよく走りまわっていたし、まだ若いので大丈夫だろうと、ろくに練習もせずに当日を迎えました。当日は天気も良く、走っていて非常に気持ちよく、走ることの楽しさを思い出しました。

また、仮装をして人前にでるのも学生の時以来で、社会人になってまでこんなことをするとは思っていませんでした。

社会人になると運動する機会が今まで以上に減ってしまうので、今年こうしてチャリティーランというイベントに参加することができて、とても充実した時間を過ごすことができました。

(丸和プッチョーズ 猪股悠介)



日ごろ誰かと一緒に走ったり、マラソンに参加することはなく、当日走れるか心配な部分もありましたが、いざ当日を迎えると、気候もよく、これ以上ないほどのマラソン日和で、気持ちよく走ることができてよかったです。

また、今まで、走ることとチャリティーを繋げて考えることもなかったのですが、こうして1.5kmという距離を走ることによって、誰かのためになっていると思うと、不思議な気がしました。

他の参加者の様子やコスチュームをみたりするのも楽しく、充実した一日になったのではないかと思います。

自分ではこんな機会を得ることはなかなかないので、機会を与えてくれた会社と、チャリティーランに感謝です。

(丸和プッチョーズ 相川美沙)



YMCAニュース

11月6日(土)に名城公園でチャリティーランが行われ、南山YMCAの会員と丸和プッチョーズの方も参加されて大いに盛り上がりました。全体でチームエントリーは53チーム、個人レースも47名集まり、今までで最大の人数になりました。天候も汗ばむほどの陽気で11月にも関わらず半そでハーフパンツで頑張る姿がうかがえました。リーダー達もウォーリーに変装して走りました。南山幼稚園のお友だちも世界の民族衣装を着て走り、みごとコスチューム賞を受賞しました。当日準備や炊き出しなどワイズの方々もご尽力いただき、大変盛り上がりしました。

そしていよいよ冬春プログラムの募集もスタートしました。出足は少し苦戦しましたが、徐々に参加者も増えてきました。スタッフも「こんなことから楽しいよ。おいでよ。」と子どもたちに呼びかけています。ボランティアリーダーもトレーニングを受けて徐々に冬プログラムモードに入ってきています。これからクリスマスやお正月など楽しいことを待ち望む子どもたちの笑顔いっぱいの南山YMCAです。

[ハーブについて]

最近ハーブという言葉がよく聞かれます。農場にも春から秋にかけて、カモミール、オレガノ、レモングラス、ローズマリー、セージ、ディル、フェネル、ベルガモット、レモンバーム、ラベンダー、バジルなど10種類以上あります。日本でハーブが急に人気になってきたのは、この数年ですが、実はもう30数年前からひそかな人気を保っています。

ハーブの日本名は、「香草」で 外国物と思われがちですが、日本にも古くからあります。伊吹山は、薬草で有名ですが、織田信長の命によりできた「薬草園」にある、イブキジャコウソウは「タイム」です。日本料理の、ショウガ、山椒、三つ葉、シソ、みょうが等はまさしくハーブです。フランス料理、イタリア料理には、いろいろなハーブが使われています。それぞれの国で、その風土に合った料理に使われる「香草」をハーブというのです。

西洋では、主として香りを楽しみ、料理、お茶として使用していますが、本来は、薬草の意味を持ちそれぞれのハーブには、薬効もあります。例えば、ローズマリーは脂肪消化促進の効果があり、宮廷では女王様の若さ保つお茶として使われました。タイムは、防腐剤の働きがあり、ミントには、鎮痛、亡父、解熱作用があり、現在でも咳止め、うがい薬に使われています。

「女王様の薬草」と言われていますし、若さを保つお茶としても使用されています。ハーブは、主として葉や花を生か、乾燥して使用されますが、保存があまり聞かないため、あまり広まりません。一方、コショウ、ナツメグ、シナモン、クローブなどは、木の根、幹、種等を乾燥させて使用するので、「スパイス」と言われるようになります。

これらは、保存がきくので、あちこちに広まり広く料理に使われるようになりました。15世紀ごろコショウ、シナモン、ナツメグ、クローブ等のスパイスはアラビア人に独占されていました。原産地は秘密にされインド経由でヨーロッパに運ばれました。時には、わずかなコショウと美女の奴隷と交換されるほど貴重でした。16世紀にイギリス、その他ヨーロッパ諸国がインドを初め各地に植民地をもつようから、イギリスその他の西洋諸国は、インドを初めあちこちに植民地を持つようになり、紅茶、

コショウを求めました。植民地拡大は、スパイス獲得の一面も持っていました。食糧保存の大した技術も無かった時代、保存剤、殺菌剤、消臭剤として使われたようです。中国では、スパイスは漢方薬に、韓国でも、医食同源の発想に至ります。インドのカレーはまさしくスパイスの典型です。

お茶もハーブの一種ですが、それぞれの土地の料理に合わせ、日本茶、ウーロン茶、紅茶などと同じ木にもかかわらず色々な種類に分かれていきます。ヨーロッパに日本茶、中国茶が持ち込まれたこともあり、その逆に江戸時代紅茶が日本にも持ち込まれたこともあります。やはり風土、料理に合わないものであまり飲用されなかったようです。また、日本茶はビタミンCに豊み、西洋の船乗りの職業病である「脚気」に日本茶を常時飲用する日本の船乗りだけが悩まされなかったのも有名な話です。

ちなみに、我が家の庭には30種類以上のハーブが少しずつですが鉢植えにしてあります。料理やハーブティーにとりたてのハーブで楽しんでいます。

(荒川メネ)

例会出席表

No.		11 / 3 F C	11 / 6 C R	11 / 11 第一 例会	10 / 18 第二 例会
1	浅井 昭和			○	
2	荒川 文門	○	○	○	○
3	小林 滋記	○		○	○
4	小塚 英史	○		○	○
5	近藤 豊	○	○	○	○
6	杉山 弘時	○		○	○
7	中井 信幸	○	○	○	○
8	深尾 俊雄				○
9	森本 征夫	○	○	○	○